















































































NO MATTER HOME OTHER PROPER HOULD

LOOK AT US

N NY REART I KEPT ESPERTING IN SILENCE

University appropriate was

LINTERDITY ADSTRUMENTEND

■ 「ランテルディ」

製匠時代表別~江戸前間のおはなしてした。 タイトルセンバンシェの着水の有名なヘブバーンのアレです。

■感覚の他のあわり

保護が天下を不定して現ばなくなり平和になりましたけど、それは同時に、人々が ののパート下をトの作の終わせ、終め付けの新しい時代のはじまりでもありました。 応信の表からはじまった製匠時代では、金幣基準の復力はないも同然になってしまって

きのやしゅう保が確かの保工のとり合いこなりました。 日本会性、こちゃこちゃの原子とリケーあみたいな状況になったわけです。 その私材のとさくきに対れて異たなは、異を表示するように活用や多の選手な材を

着て、特(かぶ)いたいでたちで会を辞り、場の現象によって大いに身を立てる事を Ballo 下がトといえば、東京とりの発展から土曜・駅向に用り詰めた将本が推奨ですが、しかし

※説明代には人々は比較の自由に土地を行き乗していたようですが、江戸時代に入ると それも別問され、あたらしくできた命令制度に持り付けられるようになりました。

そして展界の電子となった様大手記字を得たるは、新規な料(からしも)に含ま物み。 学校も自信もあるの人きな現代日本人の私にはごったがいいのかわかりませんけど 食気きな人な気に与の中には、夢のあった武器の日々を描かしんだそも多かった

(お話の中の弥積もそうゆうタイプだったみかいです。)

ウランテルディスを点(、、) (2) 国市本の基上の中のキリスト数 「カリヒたん」という言葉をはられ、四条に無視しただりりの頃のキリスト扱って、

「食りしたん」という言葉をはこめ、四本に生ましたばかりの頃のキリスト教って、 よしるな野を引わてますまた。 なんの実際 「実際を水高いというか、 事故のキリストの意味がどか、 日本上者の違っ計へ満生のなかで真ざったからがな其文を終て、どことなく活行ですよねェ。

##I#の思うMVRIDEDCEEラたひらかな展文をおて、とことなくABです♪ ■今来:とば、大家:とば

■食事ことは、気をことば 器は身がによってしゃべる言葉づかいも違ってました。 お公寓さんはお台吹きんのことは名響い、近常は正常のことはづかいでレッベリました。 協作でも400年ことはでしゃくも見るんとか、なにか見声からしてまただよな~と 記作でも400年ことはでしゃくも見るんとか。なにか見声からしてまただよな~と

のわるから、作句をアットのでは、このがた、今のようなな意見を受けない。 一方本本の方という内では、この時代、今のようなな意見を開催されないので 所は九州からよの長州の大名が電道っていまうと、世間の最になさたるや それはもう大変だったみたいです。 最終は日本を見て「方面」がいっぱいあったわけですけど、それこそ間が高うレベ

ていいもり人はたりためたいにす。 最終は日本を見に「お思」がいっぱいあったわけですけど、それこそ回が送うレベルで 誰じなかったんではないかと思われます。 様代でも79種のおバブちゃんとか、なっとっぺってるかわかんない・てことも ありますけど、それどころのほじゃなかったんでしょうれきっと・

■株土虾のこと

大変の打しなのでは中本なくない日本では、日本にどの工物でもなくさんの 成性や性気があるれてもんとまた。また。 まして表面、下分・室内・磁性でもいるの単なら、それはそれはもう事能でありて、 経行を中ではいるがでは、いる。と思いるにでいると思います。 そんは目ではようなから、おはてまでさせに当めたとってと苦に思います。 でんは目ではようなから、おはてまでさせに当めたとってと苦に思います。 でんは目ではようなから、おはてまでさせに当めたとってと苦に思いませせると いまで、またり、またり、またり、またり、またり、こと

いっぱつて行りたたちの人間も信じて、あませいたとまればいばには おわたかったちのと思いたいで、 「この2人は世十二年れる人でしょうか」と思かれることが多かった認な人ですが、 知のなかでは他されなからからかは信者のかそ前れたものなかで、 記さる人にはもうが行くに思想していたといてかまれないがですがと、 信さす合きにこのひとたちにごっておれたがと

新いながら届きました。 (ちなみにどのお話もおずそう思いながら扱いとります。)

